

令和5年度 第3回座間市地下水採取審査委員会会議録

- 1 日 時 令和6年3月13日（水） 14：00～
- 2 場 所 市役所3-1会議室
- 3 出席者 委 員 守田委員長、中島副委員長、宮下委員、原委員
事務局 暮らし安全部長、生活安全課長、副主幹兼環境保全係長、主事、
主事補
- 4 公開の可否 公開 一部公開 非公開
- 5 傍聴者 4名
- 6 議 題 (1) 令和5年地下水採取実績報告について
(2) 有機フッ素化合物分析 地下水1月調査の結果について
(3) 有機フッ素化合物分析 河川調査の結果について
(4) その他

7 配布資料

- 資料1 出席者名簿
- 資料2 令和5年 地下水採取量等の総括
- 資料3 令和5年度 有機フッ素化合物分析調査計画
- 資料4 令和5年度 地下水・湧水中の有機フッ素化合物分析結果（1月分）
- 資料5 令和5年度 河川の有機フッ素化合物分析結果
- 資料6 市内分布結果図（非公開）
- 資料7 市内分布結果表

8 議 事

(1) 令和5年地下水採取実績報告について

① 事務局説明

令和5年1月から12月までの12か月間までの地下水採取量の実績について、報告します。

地下水採取事業者の状況は、2事業者から2基の設置工事完了届の提出がありました。

地下水採取量の状況は、相模原台地、座間丘陵、河岸段丘については、一日あたりの目標採取量 34,700 m³に対して採取量の実績は 23,491 m³、沖積低地については、一日あたりの目標採取量 12,100 m³に対して採取量の実績は 7,940 m³であり、令和5年は全区分にて目標を満足していました。

この経年変化についてですが、令和5年の地下水採取量の実績は11,472,378 m³で、前年度と比較すると3.0%減少しました。

以上で報告を終わります。

(2) 有機フッ素化合物分析 地下水1月調査の結果について

① 事務局説明

有機フッ素化合物分析について、1月に地下水の6地点で調査を行いました。

その結果、令和5年9月の調査結果と同様、西栗原の1地点で暫定目標値を超える値が検出されました。

来年度は、第2回の地下水採取審査委員会でお示ししたとおり今回超過した井戸1地点、超過した付近の井戸1地点、その他市内全域の分布状況を把握するため4地点、計6地点で年2回調査を行う予定です。

本日は、今回の調査結果について、委員の皆さまのご意見を伺えればと思います。

② 質疑応答

・中島副委員長

気付いた点としましては、全体的にPFOS・PFOAの値の比、また合計と直鎖体の値の比が全域においてそれほど違いがないので、発生源が一つかどうかはわからないが原因としては同じような物質が考えられると思います。

また、小松原と西栗原は他と比べて井戸の深さが深いようだが、この2地点は他の井戸と比べてPFOAよりもPFOSの割合が多いように思えます。

内訳のところでは気付いた点は以上です。

・事務局

ありがとうございます。

・中島副委員長

昨年9月と今回1月の調査結果を比べると、9月よりも1月の結果の方が高くなっています。このあたりが季節変化によるものなのか、微増しているのか、今後の年に2回の調査により、傾向がわかっていくことと思いますので、このあたりは引き続き注視していくべきと思われます。

また、場所による比較をすると南側と比べて北側の地域では値が落ち着いてきているので、今後も少しずつ改善してくると思われます。

・事務局

ありがとうございます。

先ほど中島副委員長がおっしゃられたように井戸の深さに違いがありますが、有機フッ素化合物の存在する深さによってどのような特性があるか御教示いただけますか。

・中島副委員長

P F O SとP F O Aの土の中での特性について、それほどまだ世界的にわかっていないが、P F O Aの方が水に溶けやすいということがわかっています。したがって、P F O SよりP F O Aの方が地下水の中で若干流れが速く、P F O Sの方が若干留まりやすいと海外では言われていますが、ここまでの結果を見るとそれほど差は出ていないようにみえます。

そのほか、P F O Sは流向に対して横方向に進みづらくP F O Aよりも下流方向に広がりにくいと言われていますが、深部へ浸透しやすいかについてはまだわからないことが多いです。また、帯水層によっても違いが出ると思われるが、座間丘陵礫層のあたりは地下水の流れが速いと思われるので、物質の進み方も速くなるのかもしれませんが。

過去の文献と比べても、全体的に一様な濃度構成と思われます。

・守田委員長

地下浸透については、今後も浅い部分と深い部分を詳細に調べることで、わかってくることもあるとは思いますが。

・事務局

ありがとうございます。

今年度の市と県の調査結果が出そろいましたが、今一度、市内の地下水における有機フッ素化合物の現状をまとめてご意見をいただければと思います。

・宮下委員

市内で暫定目標値を超えているところはまばらで、市の中心部にある水源の浅井戸では最新の値では基準を下回ってきており、落ち着いてきているようです。

今回超過した西栗原の地点でも、周辺では超過していません。

広域的に大量に広がっていたり、高濃度の超過地点があったりするわけではなく、超過地点でも暫定目標値あたりの濃度を推移しています。

こういった状況なので、緊急性はないが、今後もモニタリングを継続していくべきではないかと思われます。

・事務局

当初、調査という言葉を用いていましたが、モニタリングということは、今後は監視という意味合いが強くなっていくのでしょうか。

・宮下委員

言葉の定義は難しいが、今後も計画的に分布状況をみていくべきと思われます。

・事務局

ありがとうございます。

(3) 有機フッ素化合物分析 河川調査の結果について

① 事務局説明

有機フッ素化合物分析について、1月に河川の2地点で調査を行いました。

その結果、暫定目標値の超過は確認されませんでした。

本日は、今回の調査結果及び今後の調査内容について、委員の皆さまのご意見を伺えればと思います。

② 質疑応答

・宮下委員

感想に近いのですが、昨年夏の調査時もそうですが、周辺の地下水と大差ない濃度で出ていますし、PFOSとPFOAの割合も似たような結果です。特に高い値が出ているわけではないので、周辺の地下水と同様に推移しているものと思われます。

・事務局

1点事務局から確認です。

排水路の調査について、今年度9月調査の結果の考察や来年度の調査地点は前回の委員会でご意見をいただきましたが、来年度の調査時期についてご意見を伺えればと思います。

事務局としては、今年度からの推移も見たいので、同様の9月でと考えていますが、何かご意見がございましたらお願いします。

・中島副委員長

季節によって流量の変化はありますか。

・事務局

やはり排水路なので、雨量が多い時期は流量も多くなります。

そのため雨量が多い時期は避けて、今年度は9月に選定した経緯があります。
そういった理由もあるので、事務局としては同時期がよいかと思っています。

・中島副委員長

地下水の流入の割合が多い時期がよいので、雨水の流入する影響が大きいのであれば、その時期は避けるべきと思います。

・守田委員長

では、9月で問題なさそうですね。

・事務局

はい、ありがとうございます。

・事務局

1点確認させてください。

さきほど、地下水の結果について考察していただきまして、緊急性はないとのご意見をいただきました。

河川については、地表面で起きている事象の影響を受けやすいと思われませんが、この河川の結果も踏まえて考察をした場合、本市の周辺で何かが流出しているような明確な原因は見受けられないという考察でよろしいでしょうか。

・中島副委員長

河川のデータを見るかぎり、現在市内で流出しているわけではないと思います。おそらく、過去の数値は上流側の影響を受けていたと思われれます。

地下水は地下に入って滞留している時間もあるので、そういったことも踏まえて今後も調査を継続していくべきと思います。

・事務局

ありがとうございます。

(4) その他について

① 事務局説明

本市の地下水保全基本計画について報告です。

本計画は平成28年度から令和7年度までの10年間にわたる本市の地下水の水量と水質に関する計画的な管理と総合的な地下水保全施策を推進するために策定されたものです。

令和6、7年度の2カ年を掛けて改定作業をする予定で、委託候補業者を選定するプロポーザルを実施します。

次回以降の本採取審査委員会では計画改定に係るご意見をいただきたく考えておりますので、よろしくお願いいたします。

② 質疑応答

・ 守田委員長

計画の改定というのは、具体的にどのような内容でしょうか。

・ 事務局

はい、改めて座間市地下水保全基本計画について説明します。

座間市地下水保全基本計画という120ページに及ぶ計画があります。

策定から10年を迎えますので、中間検証ではなく全面改定を考えております。

計画では、例えば、地下水量の保全、地下水質の保全、水環境の保全、保全活動の推進という大きな4本の基本方針があります。この基本方針を基に細かい事業に分けて施策を作り実施をしております。

まずは、今の事業について検証をして、次回計画を策定するのにあたって、どのような事業を推進していくことが地下水の保全に繋がるのかという観点で検討ができればと思っています。

また、作るのにあたっては、市民の方の意見も取り入れたいので、市民アンケートを実施して、その結果も踏まえて作りたいと考えています。

・ 守田委員長

アンケートを取ることによって、市民が地下水にどれくらい関心があるか、それは私も興味があります。

ぜひ、お願いします。

・ 事務局

ありがとうございます。

それでは、次回以降ご協力をよろしくお願いいたします